

氏名	伊 吹 尚 久
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3732号
学位授与の日付	平成14年6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	In Situ Expression of Granzyme B and Fas-Ligand in the Liver of Viral Hepatitis (ウイルス性肝炎肝組織におけるグランザイムBとFasリガンドの局 在)
論文審査委員	教授 加藤 宣之 教授 岡田 茂 教授 中山 睿一

学位論文内容の要旨

慢性ウイルス性肝炎において肝細胞障害がどのように生じるかは、はっきりと解明されていない。我々は細胞傷害性T細胞が発現するエフェクター分子である Fas ligand(Fas-L)、perforin、Granzyme B (Gr-B)の肝組織内局在を B 型及び C 型慢性肝炎において免疫組織学的に検討した。また細胞浸潤の程度を半定量的に判定し histological activity index(HAI)と比較した。Fas-Lは肝実質及び門脈域で CD4、CD8 T細胞両方に発現していた。連続切片の検討では interface hepatitis や巣状壊死部の単核球は主に Fas-L陽性の CD8 T細胞であった。他方 perforin や Gr-B の発現は門脈域及び肝実質の少数の単核球に限られていた。CD8 T細胞や Fas-L 陽性細胞の浸潤程度と HAI スコアとは正の相関があったが、Gr-B 陽性細胞数と HAI スコアとの間では相関ははっきりしなかった。これらの結果から慢性肝炎における肝細胞障害の発症機序として Fas-L 陽性 CD8 T細胞が主に関与していることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は細胞障害性T細胞が発現するエフェクター分子であるFas ligand (Fas-L)、perforin、Granzymeの肝組織内局在をB型及びC型慢性肝炎について免疫組織学検討を加えたもので、慢性肝炎における肝細胞障害の発症機序としてFas-L陽性CD8T細胞の関与を示唆する結果を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。